

1 審議会名	第1回上田市 子ども・子育て会議
2 日 時	平成28年7月22日 午後1時30分から午後3時30分まで
3 会 場	ひとまちげんき健康プラザうえだ 2階 第一会議室
4 出 席 者	金山会長、若林副会長、飯島委員、神原委員、清水(孝)委員、白石委員、 関委員、瀧本委員、寺尾委員、寺田委員、中澤委員、西村委員、畑中委員、 山崎委員、渡辺委員 欠席委員：一之瀬委員、小池委員、清水(綾)委員、下村委員、宮下委員
5 市側出席者	神代健康こども未来部長、【保育課】細川課長、間宮課長補佐、堀内係長、 【子育て・子育て支援課】徳永課長、中村課長補佐、羽毛田課長補佐、堀内 課長補佐、吉澤課長補佐、川合主事、【学校教育課】小井戸課長、白鳥係長、 【健康推進課】遠藤課長補佐、【障がい者支援課】小山課長補佐
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍 聴 者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	平成28年8月1日
協 議 事 項 等	

- 1 開 会 (徳永子育て・子育て支援課長)
- 2 あいさつ (神代健康こども未来部長)
- 3 人事通知書の交付 (神代健康こども未来部長)
- 4 委員自己紹介
- 5 事務局自己紹介
- 6 上田市子ども・子育て会議について (徳永子育て・子育て支援課長)
上田市子ども・子育て会議条例の規定内容を説明。会長・副会長の選出方法について説明 (子ども・子育て会議条例第4条)
- 7 会長・副会長選出
委員より事務局に選出を一任の意見あり。事務局から会長に金山委員、副会長に若林委員を選出、委員の承認。
- 8 会議事項
 - (1) 上田市子ども・子育て支援事業計画について
 - (2) 子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について
資料1に従い、各担当係長から新規・拡充事業について説明
 - (3) 教育・保育施設の平成27年度実績及び平成28年度確保の量の見込みについて
資料2に従い、各担当係長から平成27年度実施の量と平成28年度の見込みについて説明

協 議

- (委 員) 海外に赴任していた社員が11月過ぎに帰国したが、この時期に未満児の預け先が見つからず、会社から事前に情報提供しておけばよかったという反省がある。
また、子どもができる環境、結婚できる環境が必要と考える。事業計画でも婚姻実績が805人(平成25年)となっている。企業の立場からも結婚の支援ができたらよいと思う。また結婚・子育てポータルサイトなど婚活支援等を民間・企業・行政で連携してやっていきたい。
- (事務局) 市内の保育園は11月に入園受付を行い年明けに通知を送っている。途中での入園希望では、クラス編成が終わっているということ、希望の重複で希望に添えないことや、未満児の入園希望が多く、第一希望の園で受け入れができない場合があり、できるだけ近い園等を紹介している。途中入園希望の際は、保育課へ相談を願う。

(委員) 代理の者(会社の者)の申し込みは可能か。

(事務局) 正式な申込みは不可。内容の相談なら可能。親族なら申込み可能である。

(委員) 乳幼児健診未受診家庭への対応は行っているか。

保育園の方から市に対し4歳児健診の要望を出している。支援が必要な子どもが増加しているが、保育士から保護者へ指摘するのは難しい。専門職が健診で障がい等を確認し、保育園・小学校へつなげる方法をとってほしい。

(事務局) 乳幼児健診未受診の世帯は、別日程で受診してもらおう。別日程でも受けられない方は、病気面ではかかりつけ医で、発達・成長面では家庭訪問を実施し把握するようにしている。

3歳児健診では、保育園での子どもの様子を確認し、必要のある子どもに診察の指導をする。

県内で5歳児健診を行っている地域では、通園している園で専門職が子どもの様子を見る、保護者が子どもの様子を記録し、必要に応じて相談を行うとのこと。

昨年医師の会議で集団健診への医師の派遣を検討したが、同意を得られなかったため、上田市では現在の保育課障がい者担当の巡回で早期対応とすることとした。

(委員) 子ども全員に向け健診を行い早期発見したい。発達支援で必須であるので、前向きな検討を求める。

(委員) 放課後児童クラブの視点からも5歳児健診は必要。放課後児童クラブ職員も子どもの発達に関する専門性は低い。事前に障がいについて知り、その後の教育に役に立てたい。

資料1 5頁「職員の処遇改善」を前回依頼、その後処遇改善を行う連絡があり、小学校の職員会で自己紹介等を行う機会等が設けられた。小学校との連携が円滑になったため評価できる。

職員の処遇改善に関して、勤続年数に応じた加算(10年以上)となったが、勤続年数に応じない加算などの積極性がほしい。

子育て応援ハンドブック2頁「出産から子育てまで切れ目ない支援を行ってまいります」に放課後児童クラブの記載がないのはなぜか。

(事務局) 職員の処遇改善で「勤続年数に応じて一時金を支給する」となった経過は、長く勤める放課後児童クラブの職員が少なく、長く勤めるメリットを作り、長期勤続の職員増加を意図した。今後改善できる部分があったら改善していく。

ハンドブックは、毎年作り変えるので次回作成時には放課後児童クラブを追加しておくこととする。

(委員) 幼児の食育について、アレルギーを持つ子どもが多く、保育園では除去食を用意している。食が進まない子どもの保護者に訊ねると「気にしないで」といわれる。その背景には母親が多忙で食事に気を配れない状況がある。母親が交流を兼ねて食事を作る機会等、母親に直接働きかける企画をしてほしい。

(事務局) 行政としても食の重要性は理解しているつもりだ。食に関心を持ってもらえるように働きかけている(健康推進課)。今回の意見も反映していきたい。

(4) 小規模保育事業の定員変更について
事務局より資料3について説明

委員より意見なし

(5) その他

子育て支援に関する意見等の聴取および(2)(3)に関しての質問

- (委員長) 丸子統合園は幼稚園と保育園を統合するが、保育園か認定こども園かどちらか。
また、病児保育で過不足が - 17 人、またファミリー・サポート・センターの過不足が - 241 人だがどういう状況か。
- (事務局) 丸子統合園は、「保育園」で進めている。近隣の私立幼稚園の定員に余裕があるため、幼稚園は私立で対応していく予定である。
- (事務局) ファミリー・サポート・センターに関しては、利用者の形態が変化し不必要になる等で、予想していた人数よりも利用人数が少なかった結果である。施設数が足りないということではない。
病児保育センターに関しても、見込みよりも実際の利用者が少なかったということである。
- (委員長) ファミリー・サポート・センターと病児保育どちらも非常時に必要で不可欠なものだ。困難時に利用できるような提供を確保してもらいたい。
また、育児休業中の継続入所について、未満児も対応している部分はありがたい。充実している子育て支援を押し出していけばよいと思う。
- (委員) 放課後児童クラブについて、異学年が集まり教育プランもない中で、保護者でも先生でもない人への甘えが出てきてトラブルが起きやすい。小学校との連携が大切だ。子育てや教育も感心しているが、もう一步放課後児童クラブ従事者の待遇を良くして人数増、金銭面でサポートすることでより改善するのではないか。
発達障がいの子どもへの対応も、学校で発達障がいの研修を多く行っている一方で、放課後児童クラブ職員は今の発達障がいの子どもの情報は少ない。研修を安心して受けられる等の部分をより手厚く具体的にやってほしい。
- (委員長) 支援者向けのペアレントトレーニングを行うのは素晴らしい。放課後児童クラブともトレーニング等の情報を共有していければと感じる。
- (事務局) 上田市の支援員の給与水準は近隣と比較すると低くないため、上乘せは厳しく、予算をとるのが難しい部分がある。
これまでは1人態勢だった利用者数が少ない時間帯も、必ず2人以上のスタッフをそろえるように組み立て充実させている。
できるだけ毎年少しずつ改善し、発達支援の研修も行っていきたい。
また、支援員も保育士・幼稚園教諭・学校教諭等の有資格者職員を必ず1名配置し、補助員もなるべく資格を持つ人の配置に努めている。指定管理の箇所でも有資格者の配置に努めている。
勤務体制等の理由で勤続されない方が多いことから、一時金制度を設け、なるべく長期勤務していってもらえる仕組みを行った。今後も予算確保に努める。
- (委員) 放課後児童クラブ支援員の賃金を「近隣より高いから上げられない」という理由なら、子育て支援を充実させる観点からは遠いように感じ残念だ。引き続き努力をお願いする。

9 事務連絡

- ・ 次回は2月ごろを予定している。

10 閉 会